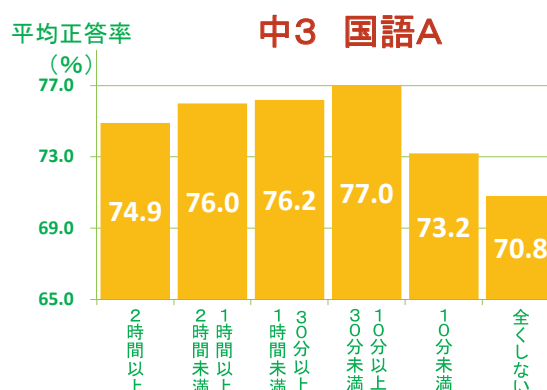
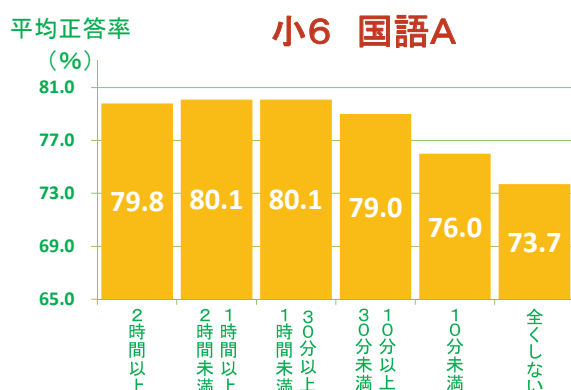


4 読書習慣の定着を！

家や図書館で読書する時間＝まずは1日10分以上

- 読書は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。
- 子どもの読書習慣は、日常生活を通して形成されるものです。家庭での読書活動を習慣化することが大切です。
- 1日10分の読書をきっかけに読書習慣を身に付け、少しずつ増やしていくことが望まれます。また、冊数に着目して、「週〇冊以上」、「月〇冊以上」という設定を行うことも効果的です。

本道の子どもたちの読書時間と平均正答率の相関 ※2



本で心を
ゆたかにしよう！
読書は生きる力！

10分は宿題などを除いた最低限の目安です。読書の量を増やすことだけでなく、様々なジャンルの本を読んで読書の幅を広げたり、読書で感じたことや考えたことを話し合うなどして読書の質を高めたりすることが大切です。また、読書時間には含みませんが、発達の段階に応じ、新聞を読むよう働きかけることも考えられます。

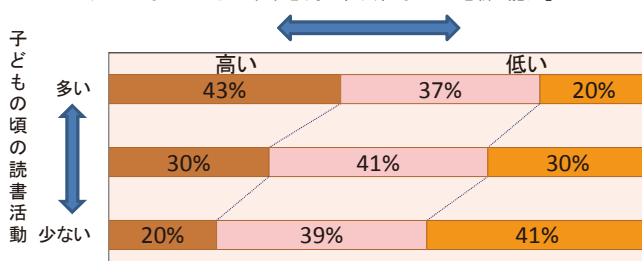
家族と一緒に読書を楽しみましょう！

子どもの頃の読書は、人生を豊かに！

子どもの頃に、読み聞かせをしてもらったり、本を読んだりするなど読書活動が多かった大人は、「社会や人のためになる仕事をしたい」、「自分の能力を発揮するために学習に取り組みたい」と回答するなど、未来志向や社会性などの「意識・能力」が高いことがわかりました。

また、小学校入学前や小学校低学年に読書活動が多かった中学生や高校生は、人を思いやる気持ちや社会のルールを守る意識が高い傾向にあります。

大人になってからの未来志向や社会性などの「意識・能力」 ※12



～「家読(うちどく)」のすすめ～

「家読(うちどく)」とは、家庭での読書を通して、家族のコミュニケーションを図ろうという取組です。特に、決まったルールやスタイルはありません。

次のような取組を通して、家族と一緒に読書を楽しんでみませんか。

<取組例>

- 絵本や物語の読み聞かせをする
- 家族全員が読書をする時間を設ける
- 家族で同じ本を読んで、話し合う
- 家族で一緒に図書館に行く
- 折り紙や料理の本などを一緒に読み、実際に作る

